



## 初夏の巣立ち

副校長 小嶋 千里

学校の玄関ののき下につばめが巣をつくりました。

5月末、4羽のひながかえりました。子どもたちも見上げては、ひな鳥の成長を楽しみにしていました。親鳥は飛び回ってえさを捕っては巣に戻り、「チーチー」と、大きな口を開けているひな鳥にえさをやり、休むことなくえさを探しに行きます。調べると、数分おき、何と、一日に300回を超える日もあるそうです。一生懸命に、献身的に子育てする姿に感心する毎日でした。6月のある月曜日の朝、巣は空っぽでした。土日の間に巣立ったのでしょうか。あのかわいい姿が見られないことにさみしさを感じつつも、無事に巣立ったことにほっとしました。

つばめの巣立ちに思いを重ねたのは、今年の国際アンデルセン賞の作家賞を受賞した角野栄子さんの「魔女の宅急便」です。ジブリの映画を通してご存知の方も多いと思います。

主人公のキキは魔女修行のため、知らない町へ旅立つのですが、その前夜、周りの心配をよそに、キキは元気に言います。

**「贈りもののふたをあけるときみたいに、わくわくしてるわ。」**

少し浮き足立つキキに、両親はそれぞれ、こんな言葉を伝えます。

**「いつの間にこんなに大きくなっちゃったんだろう。上手く行かなかったら、帰ってきていいんだよ。」**

**「そんなに形にこだわらないの。大切なのは心よ。そしていつも笑顔を忘れずにね。」**

この映画を繰り返し観ましたが、近年は、キキの「巣立ち」ともいえる旅立ちの場面が心に残るようになりました。

大人はいつか子どもが巣立っていく日に向けて、ひとりで生きていくために必要なことを教え、知恵と自信を手渡しているのだなと思います。今月後半から始まる夏休みは、家庭や地域で過ごす時間が多くなり、教室の外でのかかわりや学びが多くなります。学校、地域、家庭がともに子どもたちが安心して過ごし、それぞれの巣立ちへ向け、社会でたくましく生きていく力を付けていく場でありたいと強く、願います。

夏休みまであと3週間。来週から始まる三者面談では、4月からのお子さんの成長と課題をご家庭と共有し、夏休み中に心がけるべきことなどをお伝えさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。